

院内新人研修報告 心肺蘇生講習、気管挿管介助実習

麻酔科 橋本 正博

麻酔科の橋本です。救急委員会の一員として心肺蘇生の講習と、新人看護師・助産師向けに気管挿管の介助の実習を行いましたので、ご報告させていただきます。

まず、インターネットで公開されている心肺蘇生の解説動画を閲覧しながら、傷病者の状況の確認の手順、心肺蘇生の手順を適宜確認し、その時どのようなことに注意が必要かを解説しました。特に実際の現場では忘れがちになりやすい「自身の安全確認」、「ベッド上では背板が必要であること」を講習の中で強調しました。

その後、小グループに分かれて実際の心肺蘇生の実技、気管挿管の介助の実習（新人看護師・助産師のみ）を行いました。気管挿管は確実な気道確保の

手段の一つとして重要な手技ではありますが、近年の蘇生心肺蘇生のガイドラインでは「熟練した者が行うべき」とされ、優先順位は低くなっています。しかし、気管挿管を必要とする状況は皆無ではないことから、どのような手技であるのか、実際の介助でどこに注意を払うべきかを知っていただくため、看護部の受講対象者全員に経験していただきました。

最後に昨年末、ゴルフ練習場内で倒れた方の心肺蘇生を約7分間続けて救命に貢献したとのことで知り合いが熊本南消防署に表彰されました。本人曰く、「目の前で倒れたからしないわけにはいかなかった、何年か前に講習受けていたので、それを思い出しながらしていた」とのことでした。このような事態が起きないことを信じていますが、実際に起きた場合にどのように動くかのイメージトレーニングを時々しておきたいものですね。

J-CIMELS（日本母体救命システム普及協議会）公認講習会について

手術室 主任 大場 香代

J-CIMELSではベーシックコースをはじめとした講習のコースが各地で開催されています。目的としては、急変への気づき、母体急変対応について、座学やスキル実習、シミュレーションを通して学ぶ事です。

昨年当院では、年間3833例の分娩がありました。お産の場においては、順調に経過していても母体急変が突然発症することもあります。そのため母体急変発生時に、適切な対応ができるようJ-CIMELSの講習会をたくさんの医師、メディカルスタッフ（助

産師・看護師・救命救急士など）、医療系を専門とする学生（医学科・看護学科などの学生）が受講しています。座学だけではいざというときに使いこなすことができないため、シミュレーションを重ねて緊急時に即座に対応できるように訓練しています。当院でも、毎年3回のJ-CIMELSベーシックコースを開催しています。私自身も受講し、ベーシックコースのインストラクターとしての活動を目標に学んでいます。母体急変に早期に気づき、正しい初期対応の知識と技術を身につけ、お母さんと赤ちゃんによりそい、適切な分娩のお手伝いができるよう取り組んでいきたいと思っております。

個人情報の利用について

当院がコアラジャーナル郵送のためにお預りしている氏名、住所等の個人情報は、コアラジャーナルの郵送の他、当院で開催する行事のご案内や重要なお知らせ等を送付する目的で利用させていただきます。それ以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、あらかじめご本人の同意をいただきますので、ご了承ください。

住所が変更になられた方は、福田病院までご連絡下さい。

コアラジャーナル編集部



コアラ ジャーナル

KOALA JOURNAL

発行所 熊本市中央区新町2丁目2-6
〒860-0004 電話 (096) 322-2995
http://www.fukuda-hp.or.jp
info@fukuda-hp.or.jp
愛育会 福田病院
購読料 一部 30円 年間300円
第476号 毎月1回 1日発行

「初心に帰って」

助産師 主任 北岡 美咲

弥生の空が美しく晴れ渡り、少しずつ暖かさを感じる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？ 私は福田病院に入職して16年が経とうとしています。

これまでたくさんの妊娠中、産後のお母さんや赤ちゃんご家族だけでなく、様々なライフステージの女性の方々に関わらせていただきました。そして同期や同僚、本当にたくさんの方との出会いに恵まれ、ここまで頑張れたと感じています。

新人の頃に業務していた病棟へ1年前異動になりました。

懐かしさとともに、初心に帰りながらも、ブランクを埋めるためにバタバタと日々を過ごしています。

そこは切迫流産や帝王切開などの患者さんが入院されている病棟です。私自身、妊娠初期に絨毛膜下血腫による出血で1ヶ月程自宅安静をしなくては行けない時期がありました。この

“安静”というのが大切なのは頭でわかっているもとても大変な事で、一日一日過ぎることの長さや今日も無事に一日が終わったという安堵、これは経験しないと分からなかった感情だったなと改めて振り返りながら感じています。私は幸いに自宅安静だけだったのですが、入院してシャワーも我慢して部屋からも出れない治療が必要な方がたくさんいらっしゃいます。そんな妊婦さんと清拭やシャンプーなどする時間の中でお話をします。入院生活のことだけでなく、全く関係ない世間話などから今の気持ちやストレスを一番近い立場の看護職が傾聴して寄り添うこと、そしてその会話の中から不安を取り除くお手伝いをするをできる時もあります。いつまで分からない入院期間だからこそ、いつも会うスタッフとの関係性がとても大切なと感じています。入院されていた患者さんが産後に会いに来てくださることがあります。これは病棟スタッフにとって、入院期間を安心して過ごしてもらえてたんだなと実感できる嬉しい瞬間です。

3月といえば卒業シーズンですが、自宅安静を乗り越えた下の子も卒園の年を迎えます。よく手紙をくれて、そこには、「ままいつもありがと だいすき」と書いてくれます。いつも素直に気持ちを伝えてくれて、妊娠中の自宅安静の時期を懐かしく感じるようになれました。大きな怪我や病気をせずに成長してくれている嬉しさと、この成長の速さに寂しい気持ちですが卒園式が楽しみです。まだまだ子育て真っ只中ですが、今あるこの時間を大切にこれからも助産師として母親として多くの女性とご家族に寄り添っていきたいです。

3月8日は国際女性デーです。シンボルのミモザの花を飾ってみてはいかがでしょうか。

まだまだ寒い日が続きますが、皆さまに暖かで明るい春が訪れますように。



ホームページ



LINE



Instagram



facebook

母親学級(各教室等)、マタニティスポーツやよちよちサークルの開催については下記へお問合せください。

●母親学級（各教室等）のお問合せ●

＜ゆうかり倶楽部＞ 【受付時間】9：00～17：00(日祝除く)
【ゆうかり倶楽部直通番号】TEL: 096-322-5116

